

森林 3 次元計測システム **OWL** OWLManager Ver2新機能

＜解析ソフト：OWLManager Ver 2.2 新機能＞（2024年12月リリース）

●OWLManager Ver2が更に機能アップ！！

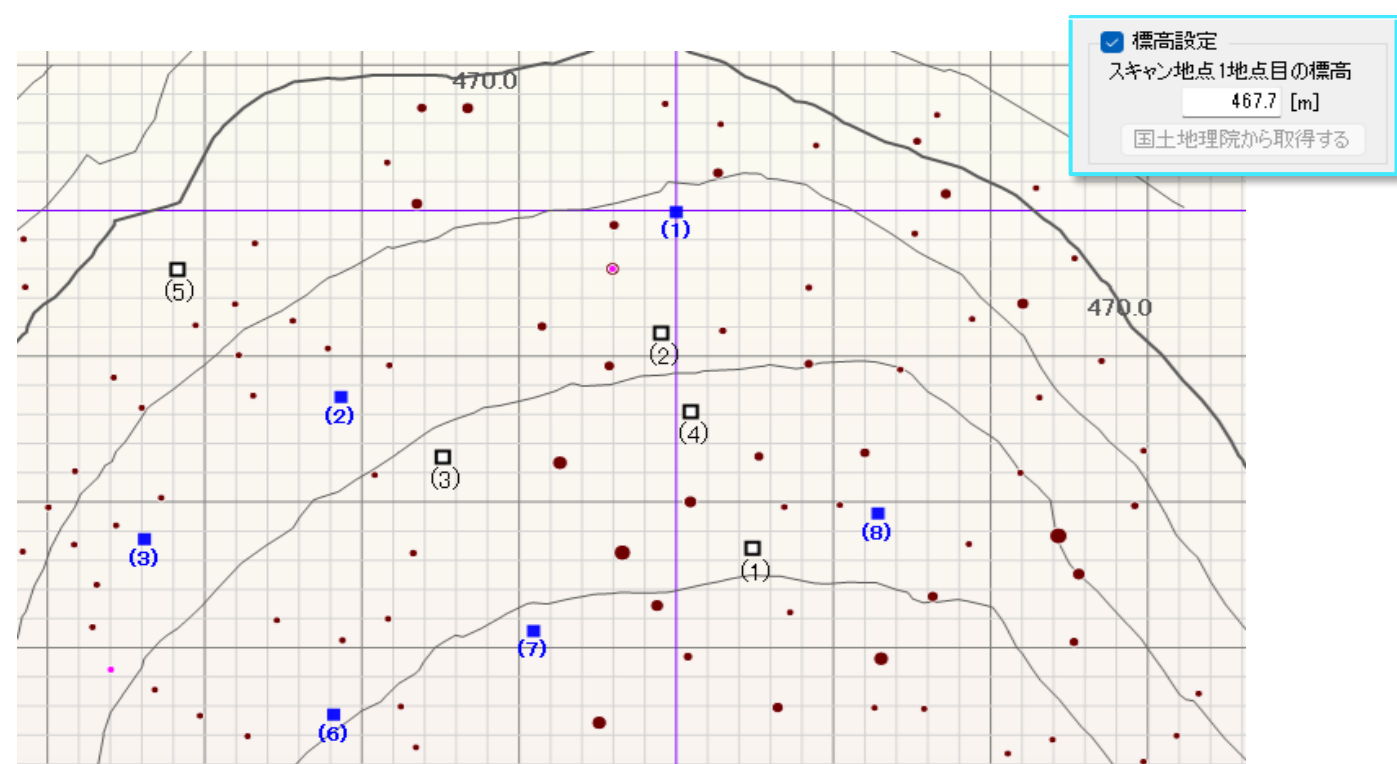
3次元計測データの解析を進化させた 4 つの機能が追加されました。

- ・等高線出力機能
- ・点群スライス機能
- ・ハイブリッド表示機能
- ・ピンクリボン検出機能

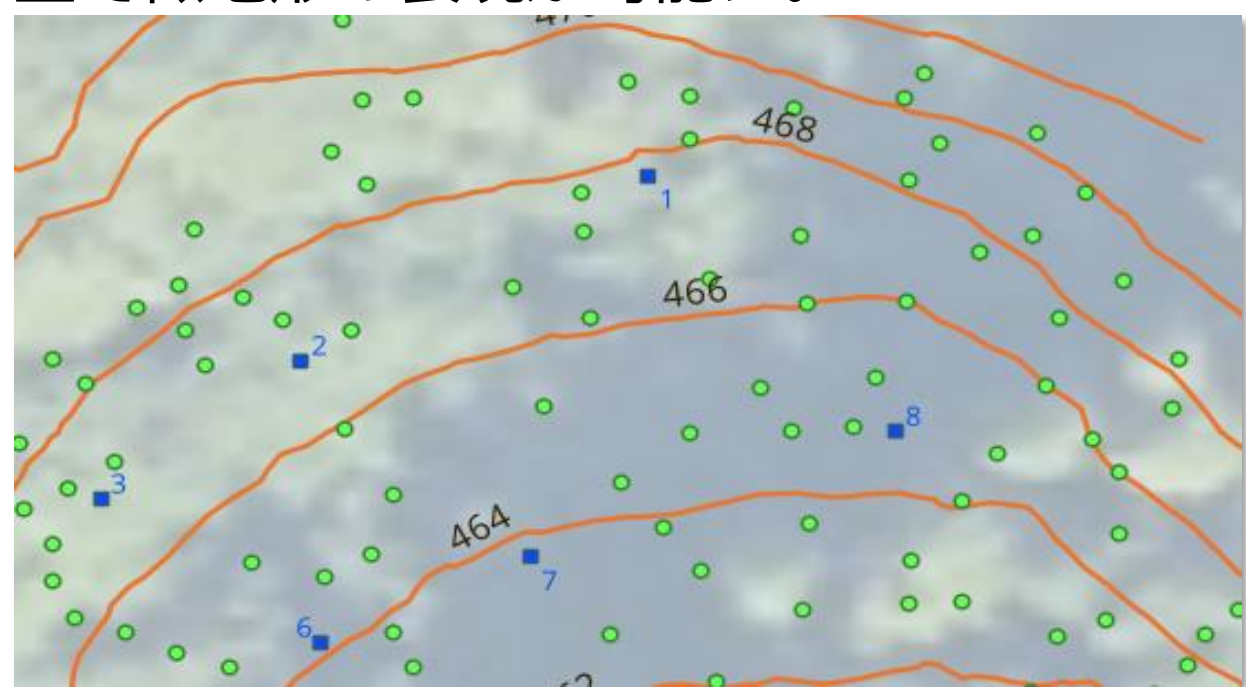
＜全てのOWL装置の計測データ向け機能＞

等高線出力機能

立木位置図に等高線が表示できるようになりました。
標高値設定により主曲線の表現も可能です。

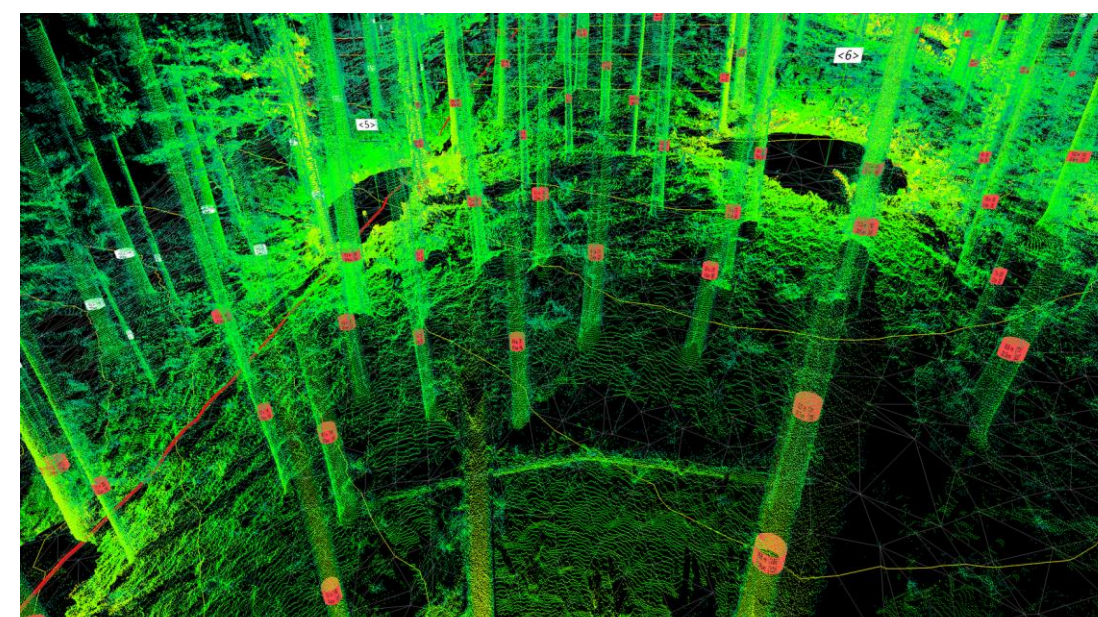


シェープファイルへの出力もできるようになりました。
等高線の幅は自由自在に変更できるため、
GIS上で微地形の表現が可能に。



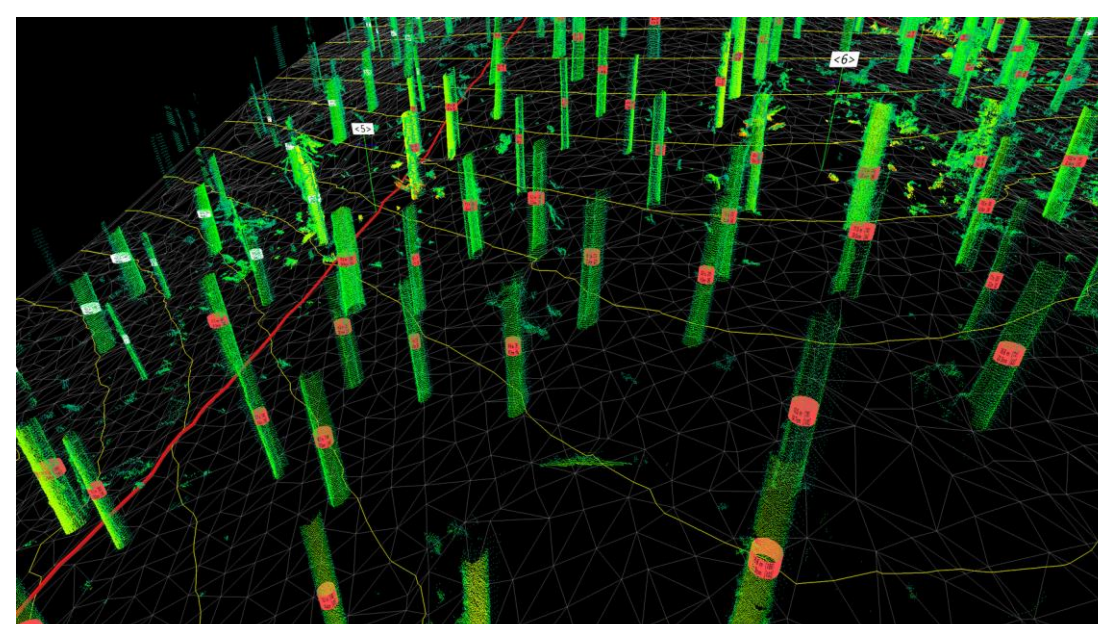
点群スライス機能

点群を任意の断面・幅でスライスして表示することが可能になりました。
注目したい立木やエリアをより鮮明に確認することができます。

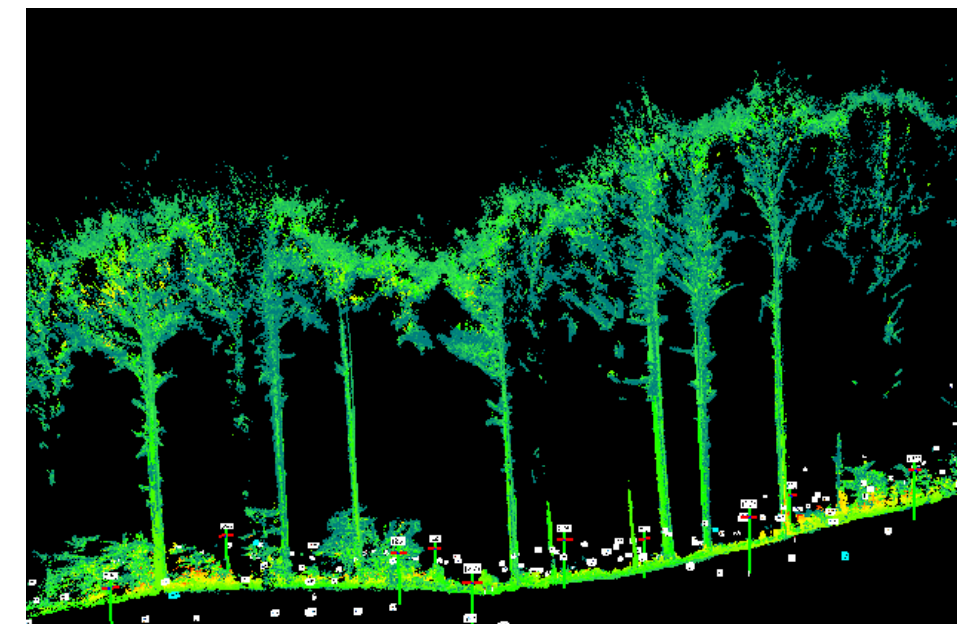


↑ すべての点群を表示

↓例えば、地面からの高さで0.5m～2m
をスライスして表示すると 立木の位置
関係が分かりやすくなります。



↓例えば、縦方向のラインで 1 mの
幅でスライスすると立木1本1本の
幹・樹冠の状態を確認できます。



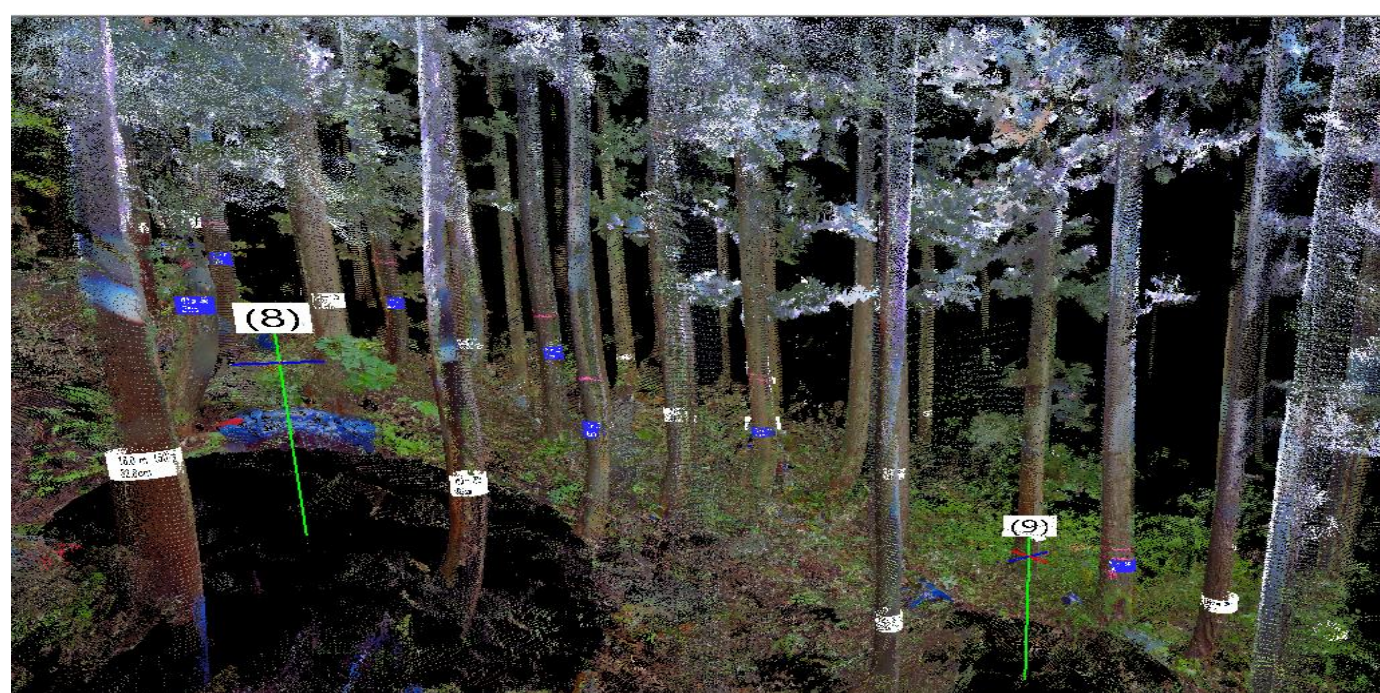
＜360°カメラ付きOWL装置の計測データ向け機能＞

ピンクリボン検出機能

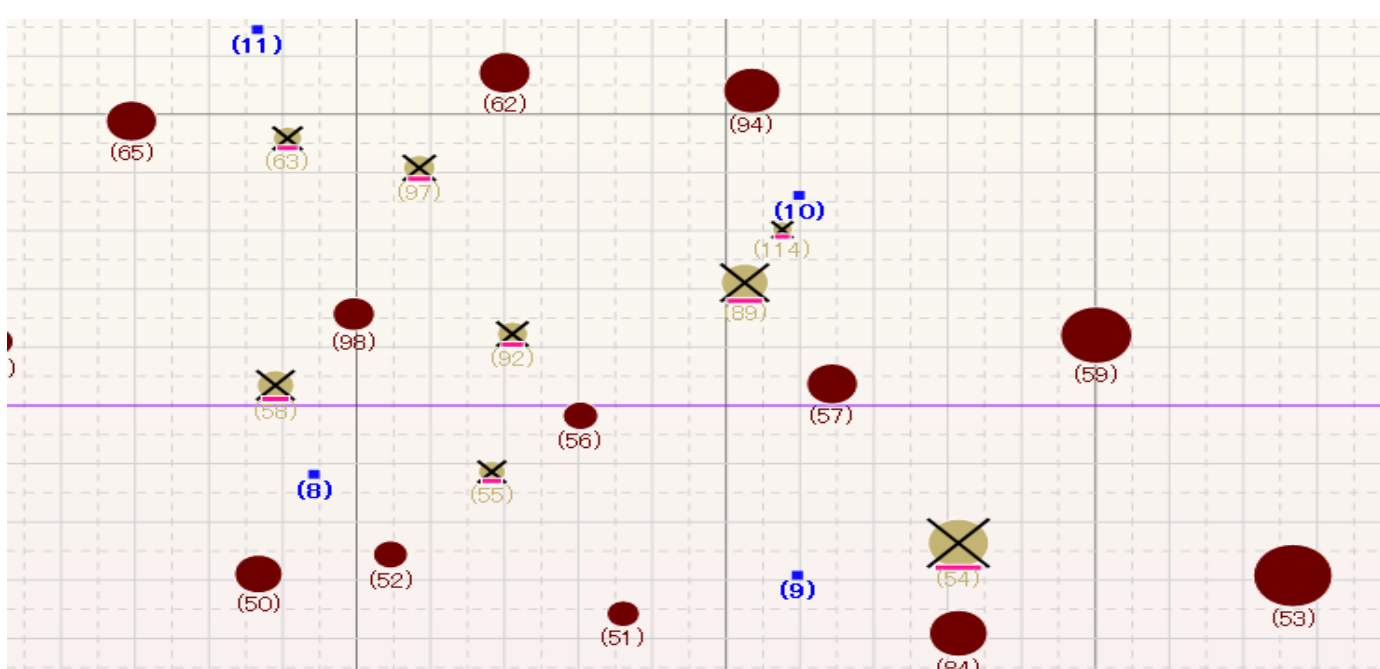
従来の立木に巻いた反射テープだけでなく、市販のピンクリボン
も自動検出できるようになりました。例えば、間伐木に巻けば、
自動的に間伐木としての特徴付けが可能になります。



ピンクリボンの
巻付け例

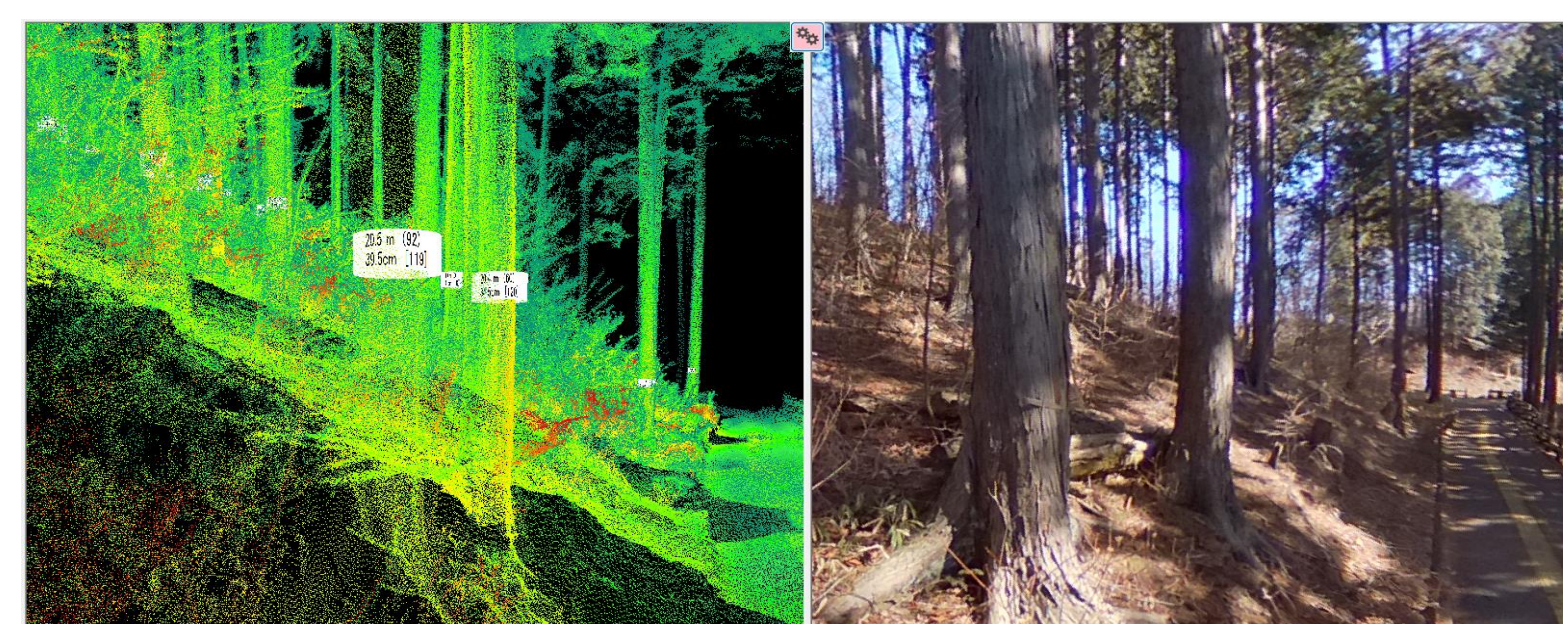


立木位置図上にも、同時に特徴付けがされます。
本例では、7本が間伐木と自動認識されています。



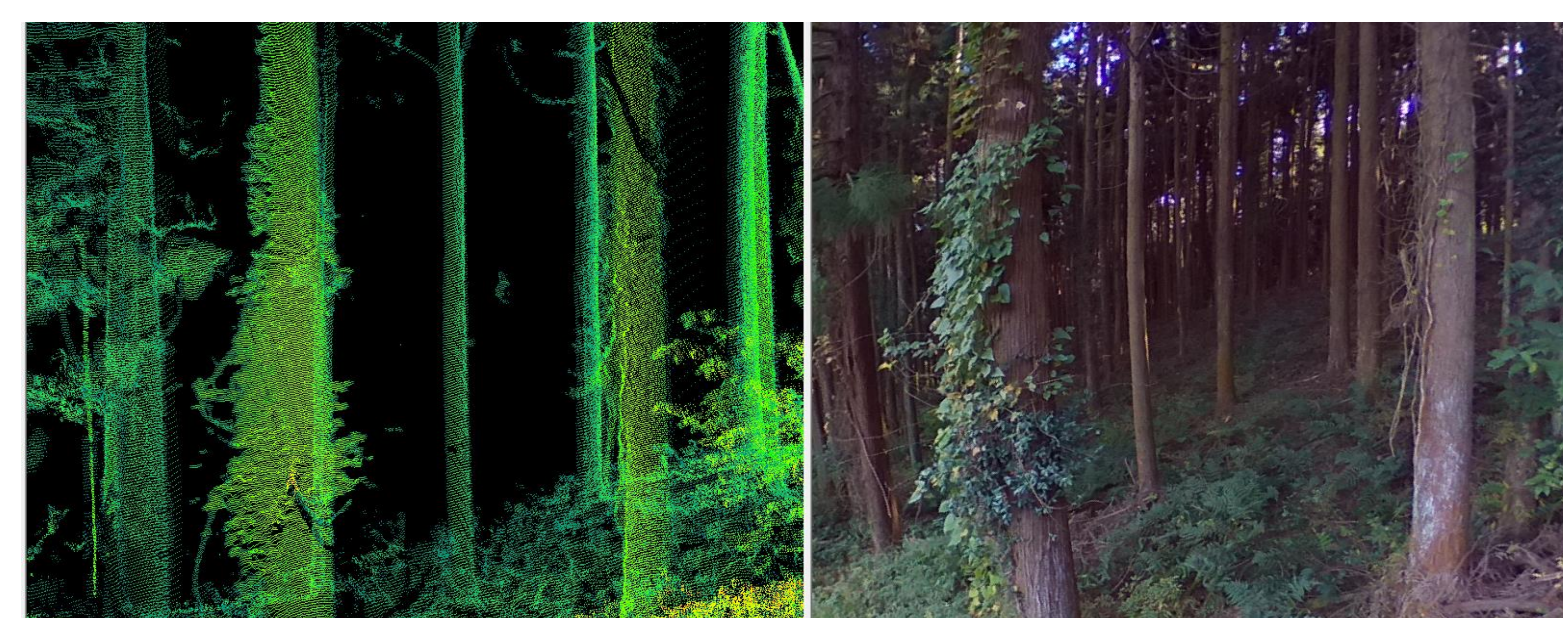
ハイブリッド表示機能

点群と360°カメラ画像をハイブリッドで表示できるようになりました。
どこで計測したのか一目瞭然となり、合意形成が更に促進されます。



↑ 立木や作業道などの位置関係が直感的に把握可能

↓ 立木の表面やツタ、下草の状態を視覚的に把握可能



- 360°カメラの付いていないOWL装置に360°カメラを取り付ける改造も承っております。
- OWLManager Ver2は、OL10x型装置のデータも、OL200型装置のデータと同様に解析可能です。

森林 3 次元計測システム

OWLManager Ver2新機能

<解析ソフト：OWLManager Ver 2.3 新機能> （2025年3月リリース）

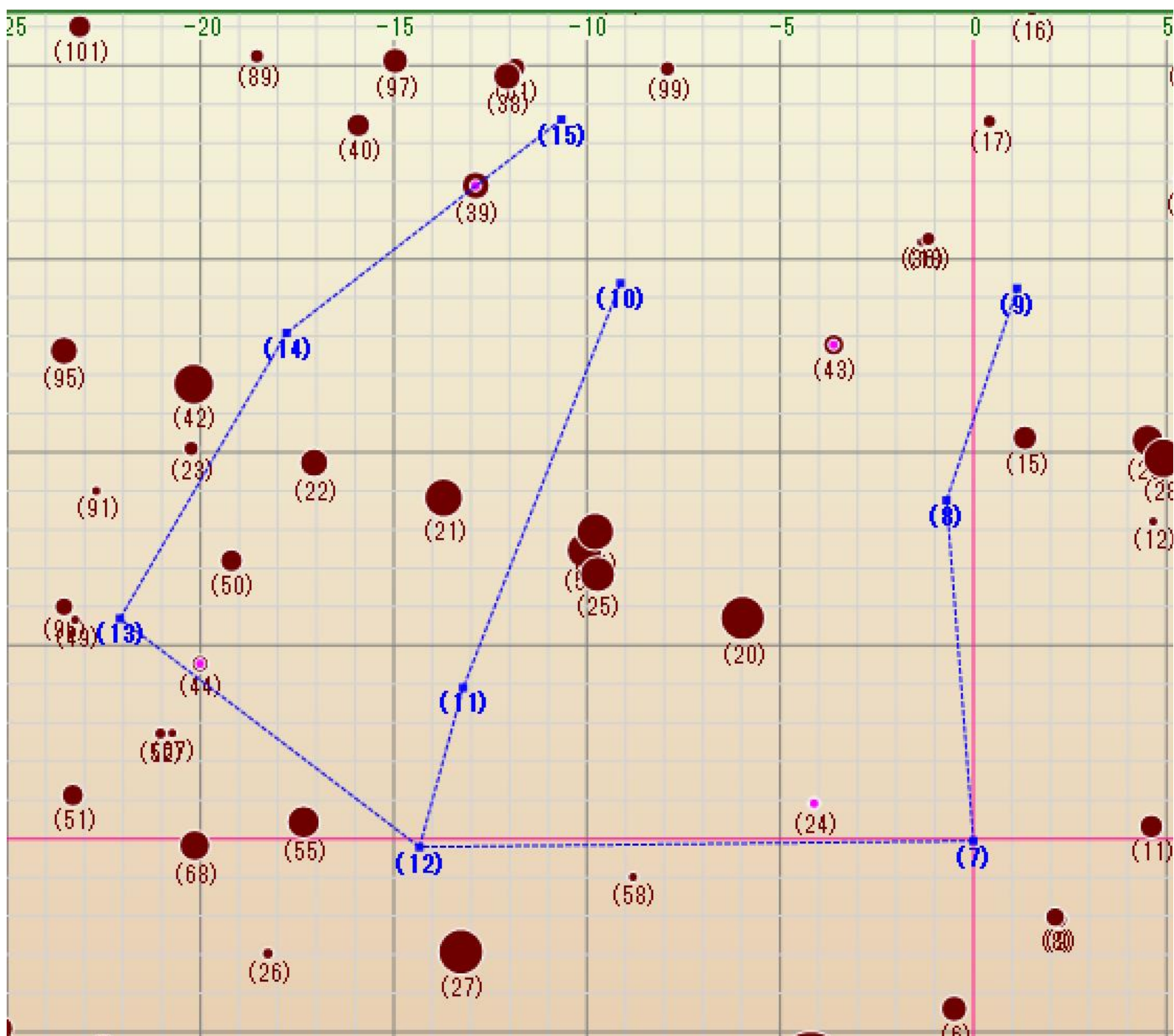
OWL（アウル）の解析ソフトウェア OWLManager Ver 2.3 では、調査データの作成時の **計測データの結合** が大きく改善されます。

枝分かれ結合機能

計測データを**枝分かれのような結合順**で結合することが可能になりました。

これにより、一筆書きのような結合順を意識して計測する必要がなくなります。
例えば・・・

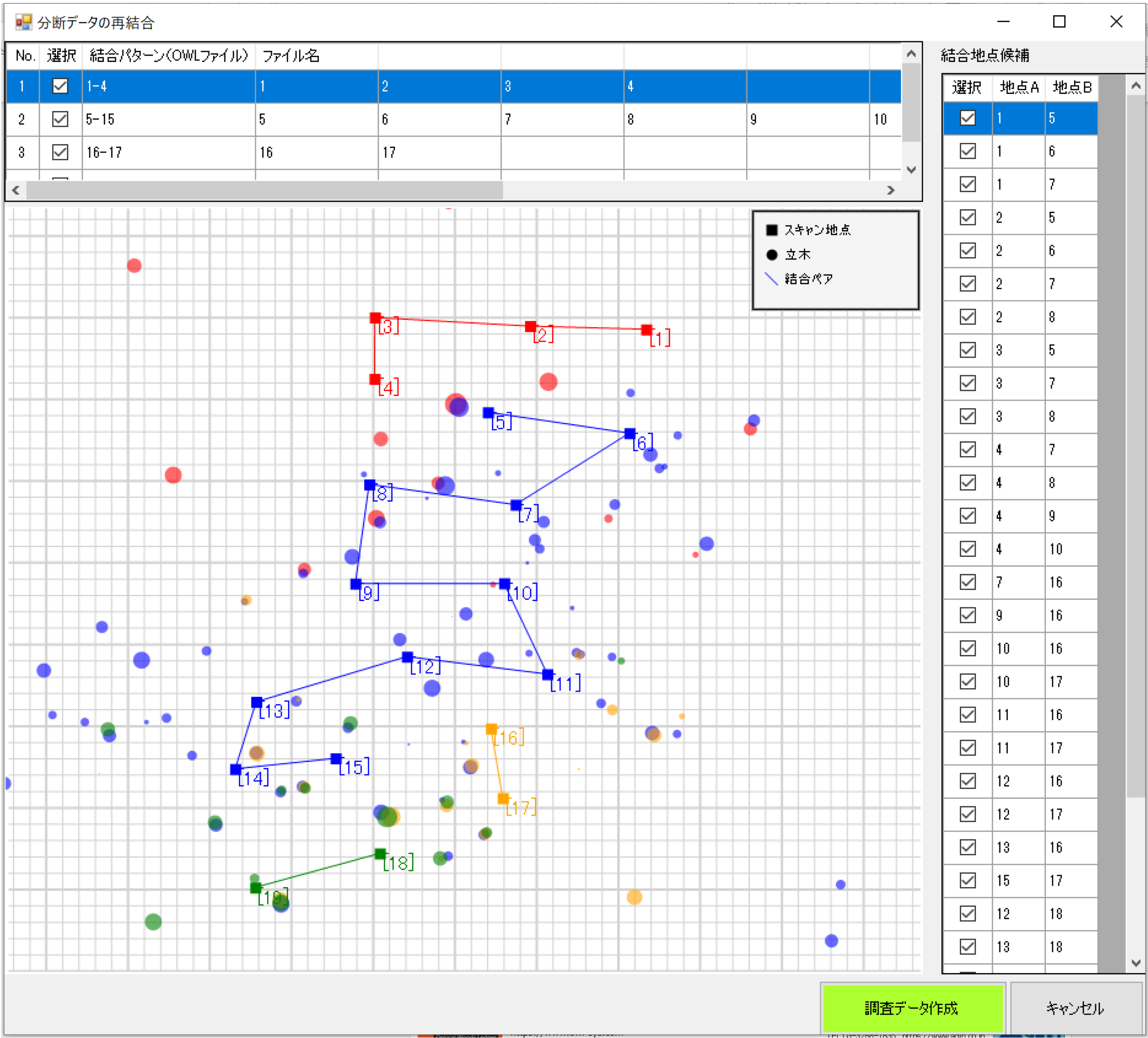
- ▽計測が完了したけど、もう少しデータを付け加えたい
 - ▽二手に分かれている林道に沿って計測したい
- 等々、様々な状況で役立つ機能となります。



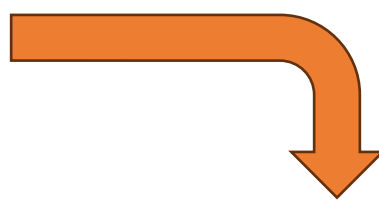
分断されたデータ再結合機能

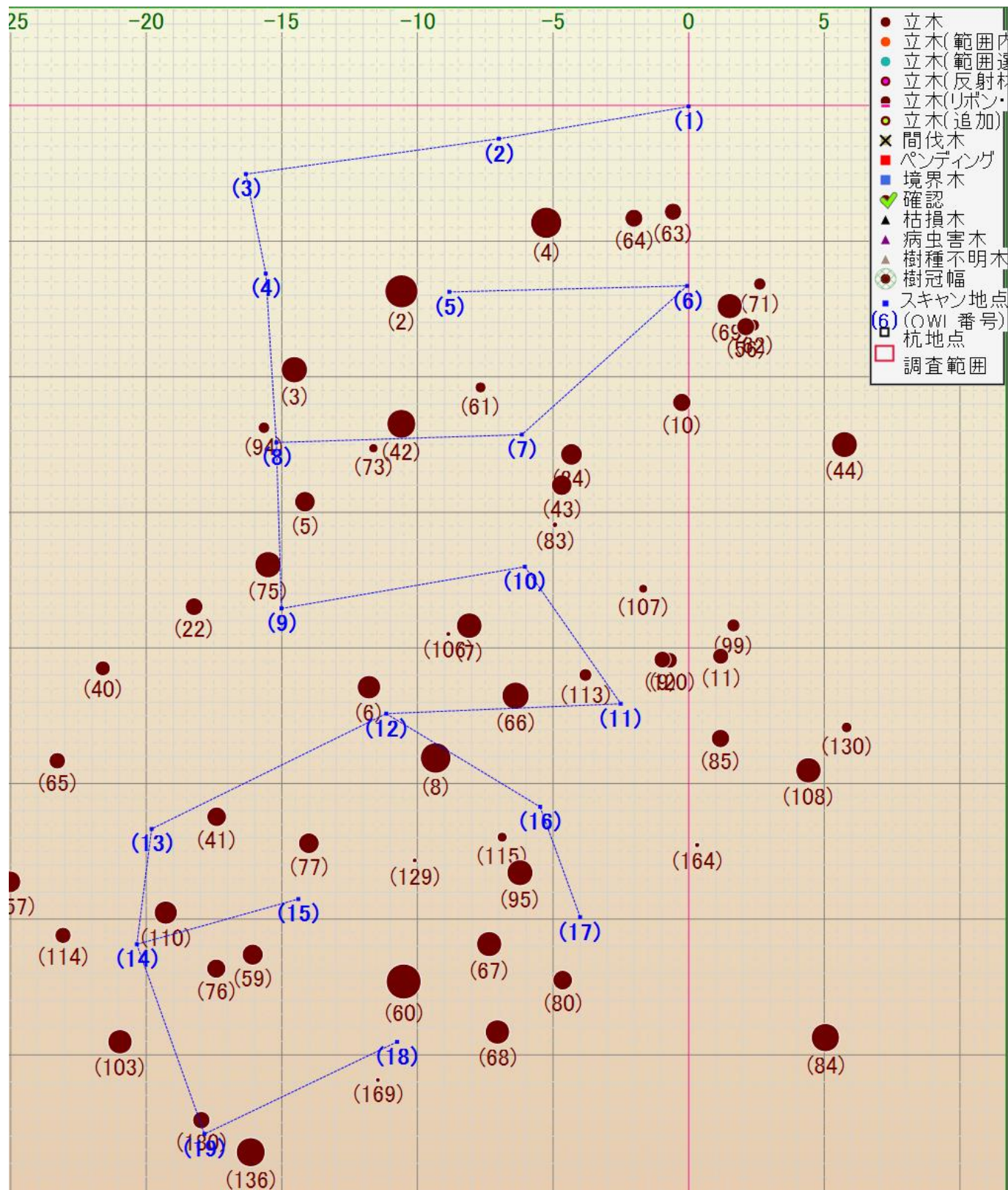
計測データの**結合に失敗しても、簡単に再結合**をおこなうことができます。

結合に失敗したら下記のような再結合画面を開くことができます。
結合パターンをおおよその位置に移動させるだけで再結合処理がおこなわれます。



- 以下のように**自動計算**されます。
- 1.結合ができそうな地点をピックアップ
 - 2.ルートを作成して結合

 **データ結合完了！**



●OWLManager Ver2は、OL10x型装置のデータも、OL200型装置のデータと同様に解析可能です。



株式会社OWL
〒101-0051東京都千代田区神田神保町3-2
Tel: 03-6823-7138 Mail: owl@owl-sys.com

森林 3 次元計測システムOWL

<https://www.owl-sys.com>